大学等におけるアイヌの人骨の保管状況等に関する調査　調査票

南山

大学名：南山大学（人類学博物館）

【調査日：10月24日現在】
【追加調査日：平成30年7月20日現在】

1．アイヌ人骨の保管について

保管の有無	有

2．保管等を行っているアイヌ人骨の状況について（1．において「有」と回答した場合のみ記入）

①大学における調査の結果、個体ごとに特定できたもの（個体ごとに整理）

番号	人骨の情報							大学等が保管に至った経緯			人骨の出土等に関する情報																人骨の保管状況に関する情報							人骨に付着している出土地に由来する土、砂等の有無	備考	左記のほか、前回調査以降に追加で判明した情報
	部位	帰属年代	帰属年代（西暦）	性別	推定年齢	個人特定の可否	埋葬年月日（死亡年月日）	時期	経緯	人骨等の権利状況	出土時期	出土場所	現在の市町村名	現在の地区名	発掘・発見主体	出土等の経緯（発掘・収集時の目的とその状況）	同一の墳数地から出土した人骨の分類（出土地のグルーピング）	出土等の経緯を特定した根拠	出土文化財の認定の有無	認定した地方自治体	副葬品の有無	副葬品の内容	人骨と副葬品を同一の保管容器で保管	副葬品の保管容器の材質・大きさ（高さ・横幅・奥行・cm）	他の副葬品と同一の保管容器での保管	副葬品の保管容器の表面等に記載されている情報の有無	出土文化財の認定の有無	認定した地方自治体	保管部局	保管場所	保管方法	人骨の保管容器の材質・大きさ（高さ・横幅・奥行・cm）	他の人骨と同一の保管容器での保管	人骨の保管容器の表面等に記載されている情報の有無			
1	②頭骨	近代？	1800年代後半～1900年代初頭か？	不明	③不明	否	不明	1940年代後半	④その他（あくまで推測だが、清野謙次による収集資料の一部であった可能性が考えられている。敗戦[redacted]が[redacted]であった関係で一時南山大学に清野コレクションの一部があったというが、ほとんどのものは京都大学等に返却されている。だが、一部のものについて返却時に漏れてしまったらしく、散逸、清野コレクションに由来すると思われる資料がある。その一つと考えられる。）	不明	不明	「樺太 本斗郡好仁村 北白主海岸　発掘」 との注記あり	樺太		④不明（岩手県[redacted]の名前あり「皇　林学兄」とある）	不明	なし	無	無	無	無	無							人類学博物館	人類学博物館　収蔵庫	桐箱に入れて保管	桐箱 1箱 26.8cm × 32cm × 高さ 27.6cm	単体で保管	なし	なし	なし	なし	
合計数：				男： 女： 不明：1																																

②大学における調査の結果、個体が特定できなかったもの（保管している単位ごとに整理）

番号	人骨の情報						大学が保管に至った経緯			人骨の出土等に関する情報																人骨の保管状況に関する情報						人骨に付着している出土地に由来する土、砂等の有無	備考	左記のほか、前回調査以降に追加で判明した情報
	部位	帰属年代	帰属年代（西暦）	個体数			時期	経緯	権利状況	出土時期	出土場所	現在の市町村名	現在の地区名	発掘・発見主体	出土等の経緯（発掘・収集時の目的とその状況）	同一の墳数地から出土した人骨の分類（出土地のグルーピング）	出土等の経緯を特定した根拠	出土文化財に認定又は未認定	認定した地方自治体	副葬品の有無	副葬品の内容	人骨と副葬品を同一の保管容器で保管	副葬品の保管容器の材質・大きさ（高さ・横幅・奥行・cm）	他の副葬品と同一の保管容器での保管	副葬品の保管容器の表面等に記載されている情報の有無	出土文化財に認定又は未認定	認定した地方自治体	保管部局・体制	保管場所	保管方法	人骨の保管容器の材質・大きさ（高さ・横幅・奥行・cm）		人骨の保管容器の表面等に記載されている情報の有無			
合計数：																																			

※　各項目の記入の内容は、上記表の「①大学における調査の結果、個体ごとに特定できたもの（個体ごとに整理）」と同様
※　1つの単位として保管しているものの中に、「人骨の情報」、「大学が保管に至った経緯」、「人骨の出土等に関する情報」が複数に分類されるものを含んでいる場合は、枝番を付して、その分類した単位ごとに記入してください。

3．アイヌ人骨等に係る根拠資料について

資料番号	資料名	媒体（調査ノート、書籍、紙片等）	著者名（個人名、教室名、講座名等）	作成（発行）時期	おおよその分量	備考
なし	アイヌ人骨　頭蓋骨	遺骨に墨書にて注記[redacted]		大正4～11年		・出土場所：「樺太　本斗郡好仁村　北白主海岸　発掘」との注記あり ・発掘・発見主体：④不明（岩手県[redacted]の名前あり。「皇　林学兄」とある） ・これまで1800年代後半から1900年代初頭の発掘かと考えてきたが、墨書にある本斗郡好仁村の地名が存在していた年代から、大正4（1915）年から大正11（1922）年の間に掘り出されたらしい。 また、清野謙次の著作に、この遺骨のことが全く触れられていないので、あるいは[redacted]本人の収集品かもしれない。